

釧路川の減災に係る取組を北海道管理区間にも拡大

～「第3回釧路川外減災対策協議会」を開催します～

一級河川釧路川で氾濫が発生することを前提として、社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的とし、市町村、北海道、国等からなる「釧路川減災対策部会」を設置し、平成28年11月に「釧路川の減災に係る取組方針」を取りまとめたところです。

この「減災に係る取組方針」を北海道管理区間にも拡大し、減災に向けたハード・ソフト対策を一体的・計画的に取り組むため、上記部会を「釧路川外減災対策協議会」に改組し、このたび、下記のとおり協議会を開催いたします。

記

- 開催日時 平成29年6月28日（水）13時30分から（1時間30分程度を予定）
- 開催場所 釧路地方合同庁舎 5階 共用第1会議室
釧路市幸町10丁目3番地
- 議事（予定）
 - ・国管理河川の減災に係る取組状況について
 - ・北海道管理河川の減災に向けた今後の取組について
- その他 会議は取材可能です。
これまで開催した釧路川減災対策部会の会議資料等は、以下のURLでご覧いただけます。

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/obpsos00000073s.html>

【問合せ先】

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部
治水課 課長 石澤 肇 電話：0154-24-7250（内線 3291）
治水課 流域計画官 川岸 秀敏 電話：0154-24-7250（内線 3288）
釧路開発建設部ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/>
北海道 釧路総合振興局釧路建設管理部
治水課 課長 宇佐見 広 電話：0154-23-9182



釧路川外減災対策協議会 設置趣旨

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨では、流下能力を上回る洪水により利根川水系鬼怒川の堤防が決壊し、氾濫流による家屋の倒壊・流出や広範囲かつ長時間の浸水が発生しました。また、これらに住民の避難の遅れも加わり、近年の水害では例を見ないほどの多数の孤立者が発生する事態となりました。今後、気候変動の影響により、このような施設の能力を上回る洪水の発生頻度が高まることが懸念されています。

こうした背景から、平成 27 年 12 月 10 日に社会資本整備審議会会長から国土交通大臣に対して「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について～社会意識の変革による「水防災意識社会」の再構築に向けて～」が答申されました。

本答申においては、氾濫が発生することを前提として、社会全体で常にこれに備える「水防災意識社会」を再構築する必要があるとされています。また、そのための施策として、関係者が連携して避難に関する計画の作成や水防等の減災に関する様々な課題に対応するための協議会等の仕組みを整備する等、円滑かつ迅速な避難の実現、的確な水防活動の推進等を図るための取組を進めるべきとされています。

また、平成 28 年 8 月に相次いで発生した台風による豪雨により、北海道では国管理河川の支川で堤防決壊、東北地方では県管理河川で氾濫被害が発生、特に岩手県が管理する小本川では要配慮者利用施設において入所者が逃げ遅れて犠牲になるなど、痛ましい被害が発生しました。今回の一連の台風による豪雨により甚大な被害を受けた各河川は、一級水系の支川の国管理区間や都道府県が管理する中小河川であり、被害の状況に鑑みると、ただちに水防災意識社会再構築の取組を加速し、都道府県が管理する中小河川においても本格展開すべきであると、平成 29 年 1 月 11 日に社会資本整備審議会会長から「中小河川等における水防災意識社会の再構築のあり方について」国土交通大臣に答申されました。

このことを踏まえ、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進し、社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的とし、河川管理者、北海道、関係市町村等からなる平成 28 年 4 月 27 日に設置された「釧路川水防連絡協議会 釧路川減災対策部会」の対象河川を北海道管理区間に拡大し、あらたに「釧路川外減災対策協議会」を設置するものです。

釧路川外減災対策協議会 構成員（※下線は今回から参加）

釧路市	市長
釧路町	町長
<u>厚岸町</u>	<u>町長</u>
<u>浜中町</u>	<u>町長</u>
標茶町	町長
弟子屈町	町長
鶴居村	村長
<u>白糠町</u>	<u>町長</u>
釧路総合振興局	局長
釧路地方气象台	台長
釧路開発建設部	部長